



こんにちは。さいとう石材です。

石だより

2026年
新年号

2

026年が明けてまもなく開催される一大イベントが、「ミラノとコルティナ・ダンペッツォ冬季オリンピック」です。2月6日〜22日までの約2週間、イタリア北部の2都市を会場とし、8競技116種目が実施されます。

イタリアといえば石の文化で、建築物も石造りです。開催地・ミラノの中心地に建つ



石文化が生み出した 個性豊かな建築たち

ドウオモ（教会）は、近隣で産出された大理石が用いられています。世界最大級のゴシック建築もあり、その緻密な装飾と壮麗さで見る者を圧倒します。

世界遺産に登録されている建築も多く、中でもユニークなのは、イタリア南部の「アルベロベッロのトゥルッリ」です。威容を誇るドウオモとはまったく異なり、トゥルッリは円錐形の屋根と白い壁が特徴の可愛らしい家です。素材はすべて地元の石灰岩で、屋根は平たく加工した石を重ねて形作られ、壁は切り石を積んだ後、漆喰で塗り固められています。

壁の厚みは一般的に80センチ〜1メートルもあり、中には2メートルの壁もあるようです。この壁が外気の暑さ・寒さを遮断してく

れます。

アルベロベッロから西に向かえば、「マテラの洞窟住居」があります。洞窟住居は、グラヴィーナ渓谷の岩肌を掘って造られたもの。地質はアルベロベッロと同じ石灰岩です。中でもサンタ・マリア・デ・イドリス教会は、外観は岩山そのものでダイナミックです。

石とともに長い歴史を歩んできたイタリア。地域ごとに異なる石造建築の表情は、蓄積された知恵と美意識の結晶です。オリンピックの舞台でも、伝統と革新を併せ持つ景観が世界を魅了することでしょう。



裏面「写真に一言」を
ぜひお読みください

株式会社 齋藤石材



本社

TEL 0229-67-3036
加美郡加美町字中原 25-14
メール: isi@isi5.com

古川店

TEL 0229-28-3744
大崎市古川休塚目見田 1-3

ホームページへは、「齋藤石材 宮城」で検索 または、右上QRコードでアクセス↑

お墓に刻まれた言葉⑬

「明治三十〇年〇月〇日没ス 享年三十〇 月給四十圓」

正岡 子規 (1867 ~ 1902) / 俳人・歌人

明治時代を代表する文学者であり、俳句・短歌に革新をもたらした正岡子規。「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」は誰もが知る一句でしょう。小説や評論、随筆も手掛け、多才ぶりを発揮しましたが、肺病にかかり、34歳という若さで生涯を終えています。

お墓は東京都北区の大龍寺にあり、冒頭の言葉は墓碑に刻まれた文章の一部です。子規は友人に宛てた手紙で「自分が死んでも石碑などは要らない」と伝えつつ、「やむを得ず字を彫るなら別紙のように」と書き記しました。その全文は一〇七文字あり、墓碑には自筆の文字が使われています。

「正岡常規又ノ名ハ処之助又ノ名ハ升又ノ名ハ子規又ノ名ハ獺祭書屋主人又ノ名ハ竹ノ里人伊予松山二生レ東京根岸二住ス父隼太松山藩御馬廻加番タリ卒ス母大原氏二養ハル日本新聞社員タリ明治三十〇年〇月〇日没ス享年三十〇月給四十圓」

「常規」は子規の本名、続いて幼名や雅号、出身地や住まい、父母について記します。「又の名」の多さに驚き、最後の「月給四十圓」に意表をつかれ、思わず笑みがこぼれます。「子規」はホトギスのこと。肺病により咯血した後、中国の故事「鳴いて血を吐くホトギス」にちなんで使い始めました。亡くなる2日前まで執筆した随筆『病牀六尺』には、「病気を楽しむといふことにならなければ生きて居ても何の面白味もない」と綴っています。死を意識しながら、持ち続けた軽さと明るさ。それも子規の才能であり、魅力に違いありません。



3基の墓石が並ぶ。正面が子規、右が母・八重、左が正岡氏累世。



辞世の句にちなみ、糸瓜(ヘチマ)が描かれる。

行楽世界
食事の
vol.6



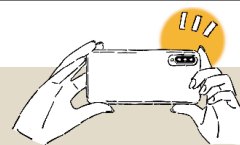
大晦日のチェノーネ

～レンズ豆と豚肉のソーセージ～



イタリアでは、大晦日の夜に「チェノーネ（大夕食会）」と呼ばれる食事が催されます。クリスマスは家族や親戚と過ごすのに対し、大晦日は友人や恋人とパーティーを開いたり、レストランでごちそうを食べたりと、にぎやかに年を越します。

食卓に欠かせないのが、レンズ豆と豚肉のソーセージです。レンズ豆は小さく平たい豆で、硬貨に似ていることから、お金と富を意味します。豚は多産であることから、豊かさや繁栄の象徴とされています。豚の様々な部位をひき肉にし、コショウやナツメグ、クローブ、シナモンなどのスパイスを加え、豚の足の皮に詰めたものを「ザンポーネ」、腸に詰めたものを「コテキーノ」と呼びます。レンズ豆とともに煮込んだ一皿が定番です。



スタッフの「写真に一言」

今年も大変大変お世話になりました。たくさんの方にご縁を頂き、社員の皆さんや家族の支えもあり石屋を継ぎ7年を迎えました。毎日感謝感謝でございます。山あり谷ありの毎日ではありますが努力無しでは前に進めません。日々精進しながらまた2026年も応援していただけるように一丸となり頑張っていきたいと思ひます。皆様の幸せと健康をお祈りいたします。

定休日

加美町本社 : 12月第1・3土曜・日曜

1月第1・3土曜・日曜・祝日

大崎市古川店: 毎週木曜日・その他不定休のためお問合せ頂けると助かります。

今月の予定

1月 1日(木)…元旦

1月 7日(水)…七草

1月11日(日)…鏡開き

1月12日(月)…成人の日

1月15日(木)…小正月・どんど焼き

1月20日(火)…大寒

～年末年始休業のお知らせ～

12月28日～1月7日

石だより

2026年
新年号

さいとう石材 宮城県加美郡加美町字中原 25-14 TEL:0229-67-3036